
NEWSLETTER

日本保健物理学会

No.56 February, 2010

目次

企画案内	2
ラドン測定標準化及び関連の国際動向に関するシンポジウム	2
第3回アジア・オセアニア国際放射線防護会議 (AOCRP-3)	2
理事会報告	4
平成21年度 第5回 理事会 議事録	4
企画委員会報告	7
平成21年度 第3回 企画委員会 議事録	7
日本保健物理学会特別シンポジウム開催報告	8
編集委員会報告	9
平成21年度 第3回 編集委員会 議事録	9
国際対応委員会報告	11
国際対応委員会活動報告	11
放射線防護標準化委員会	11
平成21年度 第29回 放射線防護標準化委員会幹事会議事録	11
若手研究会	12
活動報告	12
学友会	13
活動報告	13
専門研究会報告	14
ラドン測定標準化専門研究会	14
放射線教育の推進支援に関する専門研究会	14
ラドンの防護規準に関する専門研究会	14
学会掲示板	15
2010年度専門研究会の募集について	15
インターネットグループの活動	15
メーリングリストへのアドレス登録のお願い	15
学会刊行物の案内	15
会員コーナー	15
保物セミナー2009に参加して	15

企画案内

ラドン測定標準化及び関連の国際動向に関するシンポジウム

日程：2010年3月3日（水）

時間：13時～17時

場所：東京大学アイソトープ総合センター講習室（定員70名程度）

http://www.u-tokyo.ac.jp/campusmap/cam01_13_06_j.html

（メトロ千代田線根津駅徒歩5分）

参加費：資料代実費にて（調整中）

事前申し込みの必要はありません。直接会場へお運びください。

プログラム（案）

- 13:00 - 13:25 ラドン測定標準化専門研究会の意義及び国際的な動向（床次）
13:25 - 13:50 ラドン測定標準化に係る国内の動向（石森）
13:50 - 14:50 測定法に係るレビュー（石川・北口）
 1) ラドン（気中・水中・散逸）
 2) 壊変生成核種
 3) 校正
14:50 - 15:00 休憩
15:00 - 15:30 ラドン測定標準化専門研究会の提言（真田）
15:30 - 15:50 意見交換
15:50 - 16:00 休憩
16:00 - 16:30 ラドンの対策レベルに関する国際動向（WHO, IAEA, ICRP）（米原）
16:30 - 16:35 コメント1 保物学会における関連の過去の活動（下）
 1) 屋内ラドン規制対応委員会
 2) 水中ラドンに関する専門研究会
 3) 屋内ラドンのリスク評価とその対応に関する専門研究会
16:35 - 16:40 コメント2 放射線防護標準化委員会の関連活動（飯本）
16:40 - 16:45 コメント3 ラドン防護基準に関する専門研究会の活動予定（飯田）
16:45 - 17:00 意見交換

運営体制

ラドン測定標準化専門研究会：安岡

ラドンの防護基準に関する専門研究会：細田

企画委員会：飯本

（東京大学 飯本武志）

第3回アジア・オセアニア国際放射線防護会議（AOCRP-3）

大会関係者一同、さらに多くのみなさまのご参加のお待ちする意味で、発表申込締切の延長、新たな参加料金枠の設定などをいたしました。学生さんは参加費実質無料、一般の一日入場枠（聴講のみ）もご用意しました。リフレッシュャーコースやランチョンセミナーの演題、登壇者も決まりつつあります。概略は以下の通りです。ホームページもご覧ください。

<http://www.aocrp-3.org/index.html>

http://www.aocrp-3.org/j_home.html

A O C R P - 3（第3回アジア・オセアニア国際放射線防護会議）

【会期】平成22年5月24～28日

最終日28日（金）はテクニカルツアー（現在調整中）

千葉コース（分析センター＆放医研）予定

東京コース（東大、首都大、R I 協会）予定
 つくばコース（J A X A、K E K、産総研）予定

【場所】タワーホール船堀

【参加費】

全参加 - 4月30日振込分まで 45,000円
 - 5月1日振込分から 50,000円
 学生 - 日本保健物理学会 学友会員 無料* New!
 学会の準学生会員（入会無料）の登録必要
 ここから登録可
<http://wwwsoc.nii.ac.jp/jhps/j/outline/archive/membership.html>
<http://www.n.t.u-tokyo.ac.jp/~jhps/modules/home0/>
 学友会員以外 45,000円

単日参加 10,000円/日** New!
 聴講のみ（RC、LSも可）。発表はできません。

懇親会（月、木） 7,000円/回 New!

*注：参加費無料の学生の場合は昼食（弁当）別、懇親会別。
 アブストラクト集（冊子）とプロシーディングス CD は
 お持ちいただけます。

**注：一般の単日参加の場合は、昼食（弁当）別、懇親会別、
 プロシーディングス CD の配布はなし。
 アブストラクト集（冊子）はお持ちいただけます。

【重要な期限】

一般（ポスター）発表申込期限：2月26日（金） 延長
 アブストラクト締切：2月26日（金） 延長
 プロシーディング締切：3月31日（水）
 テクニカルツアー申し込み締切：4月10日（土）
 大会参加登録締切：5月17日（月）

【リフレッシャーコース】演題はすべて仮題。演者調整中、交渉中を含む。

5月25～27日 9:30-10:20

学生等を対象とした基礎的で、全体を俯瞰した論点整理。

- RC-1 放射線防護の体系 - 線量拘束値と線量限度の歴史 -
 講演者交渉中（ICRP 国際放射線防護委員会）
- RC-2 国連科学委員会の最近の活動
 米倉義晴氏（放射線医学総合研究所）
- RC-3 放射線に関する単位の定義と今後の課題
 講演者交渉中（中国）
- RC-4 医療領域における放射線防護
 講演者交渉中（WHO 世界保健機関）
- RC-5 ヒト以外の種に関する放射線防護
 ヒーサン・キム氏（韓国水力原子力会社）
- RC-6 放射性廃棄物管理の考え方
 ディディア・ルーバー氏（IAEA 国際原子力機関）
- RC-7 原子力発電所における放射線安全
 ムンヒー・ハン氏（韓国原子力研究所）
- RC-8 自然線源 / ラドン / 航空機搭乗 / 宇宙飛行の被ばく管理
 講演者交渉中（ICRP 国際放射線防護委員会）
- RC-9 公衆の放射線教育と意思決定への利害関係者の関与
 ジャック・ロシャー氏（IRPA 国際放射線防護会議）

【スペシャルランチョンセミナー】

5月25日 12:45-13:45

「英語落語を楽しむ」文京学院大学准教授 大島希巳江氏
英語落語同好会の皆さん

紹介パンフ <http://www.aocrp-3.org/schedule.html>

英語落語の第一人者、大島先生に解説いただくとともに
大島先生および文京学院大学英語落語同好会の学生さんによる
英語落語実演を昼食と共に。

【ランチョンセミナー】演題はすべて仮題。演者調整中、交渉中を含む。

弁当昼食をとりながらの、図や写真等を多用した講演会。

5月24日 12:15-13:15

26日、27日 12:45-13:45

LS-1 自然放射線源の管理の実際と論点

石森 有氏 (JAEA 日本原子力研究開発機構)

LS-2 放射線の生物影響の正しい理解

長瀧重信氏 (元長崎大学)

LS-3 放射性廃棄物の管理とクリアランスシステムの現場適用

山内豊明氏 (日本原子力発電)

LS-4 放射線防護分野における安全文化と人材育成

松浦祥次郎氏 (元原子力安全委員会)

LS-5 PHITS の開発とその適用

中島 宏氏 (JAEA 日本原子力研究開発機構)

LS-6 IAEA の最近の活動と今後の課題

エレナ・アマラル氏 (IAEA 国際原子力機関)

(東京大学 飯本武志)

理事会報告

平成21年度第5回理事会議事録

日時：平成21年11月16日(月) 13:30 - 19:00

場所：日本原子力技術協会 会議室

出席者：理事：金子(会長)、太田、近江、小佐古、杉浦、鈴木、服部、村山、百瀬、安岡、猪俣

監事：村上 参与：小池 委任出席：酒井

議事概要：

(1) 編集委員会活動状況報告について

資料 5-2-1 に基づき、服部理事より、電子ジャーナルの進展状況、海外との学会誌受領、インパクトファクターの具体的な取得方法について報告された。

電子ジャーナルについては、JST(科学技術振興機構)より Journal@rchive での電子化(過去の学会誌の電子化)にあたり、一貫性の観点から J-STAGE(2008年以降の登録サイト)への登録することについて承認された。なお、J-STAGE 登録にあたり発生する upload 作業の外部委託(年間約15万円)については、編集委員会にて更なる合理化を検討することとされた。

また、現状 CiNii では学会誌刊行後1年後から web 公開してきたが、会員の利便性向上の観点等踏まえ、今後、電子ジャーナルについては、学会誌刊行直後から web 公開する方針について承認された。編集委員について、木村公彦氏の後任として林克巳氏が、新規に英語圏の査読者として Sergei Y. Tolmachev 氏が委員として承認された。なお、英語圏の査読者については、IF 取得にあたり有効であり、長期的には欧米の学会に推薦してもらうことも検討することとされた。

IF 取得にあたり、ISSN 登録名を現在の「Hoken Buturi」から「Jpn. J. Health Phys」に変更した上で、WoS(Thomson Reuters 社提供データベース)に登録申請することについて承認された。

(2) 企画委員会活動状況報告について

資料 5-2-2 に基づき、百瀬理事より、専門研究会の活動状況、企画行事(保物セミナー2009、UNSCEAR

シンポジウム), インターネットグループ活動状況, 企画委員会開催予定, 臨時委員会「放射性物質による体内汚染の除去剤の早期承認に関する検討委員会」のスケジュールについて報告された。

「放射線教育の推進支援に関する専門研究会」については, 主査等体制固めも早目に進めていくこと, 会員以外へのML配信については不可であり今後の対応について企画委員会で検討することとされた。また, 「放射性物質による体内汚染の除去剤の早期承認に関する検討委員会」の検討については, 当学会における検討として現場のニーズの観点からまとめていくことが確認された。

(3) 国際対応委員会活動状況報告について

資料 5-2-3 に基づき, 服部理事より, IRPA 対応, AOARP 対応, 中国放射線防護学会対応, AOCRP-3 対応について報告された。

IRPA からの Admissions Committee 委員会の委員推薦依頼については, 今回は先方の要望もあり酒井理事を推薦している。今後の仕組みについて, 国際対応委員会の検討を踏まえ理事会で指名することが確認された。

(4) 放射線防護標準化委員会活動状況報告について

資料 5-2-4 に基づき, 鈴木理事より, 「重要な概念」解説書アップデート作業, 放射線安全管理学会での発表(12/3)準備状況, 第 29 回幹事会開催予定について報告された。

また, 委員について, 千葉吉紀氏の後任として林克己氏が委員として承認された。

(5) 大学等教員協議会活動状況報告について

資料 5-2-5 に基づき, 安岡理事より, 学生論文賞の設置について提案された。

提案された 4 つの案の中から, 修士・卒業論文を賞の対象とする案を採用した。具体的な形とした上で次回理事会において審議することとされた。

(6) 広報関係について

資料 5-2-6 に基づき, 近江理事より, 総会案内状の合理化の検討状況について報告された。

コストの観点からメールと往復葉書の組み合わせ方式が有力であり, より具体化して次回理事会において審議することとされた。

(7) 会計関係について

資料 5-2-7 に基づき, 村山理事より, 第 2 四半期の収支状況について報告された。

なお, 支出の部において, 「JARR 庶務 50,000」は「分担金」から「JARR 費」に科目移動することとされた。

会費収入について, 正会員で 76.3%, 正学生会員で 20%と低く, 事務局から 11 月末に発送予定の会費納入願(本年度最終 3 回目)の他にも, 有効な手段を検討することとされた。

財政収入の確保策として, 投稿料又は掲載料(現状, 会員は無料)について, 他学会並みに徴収することについて検討することとされた。

(8) 他学会等との対応について

資料 5-2-8 に基づき, 杉浦副会長より, 日本放射線安全管理学会との対応状況, JARR 対応状況(2015 年 ICRR, 2013 年 ACRR, 2009 年 AARR 理事会, 2010 年米国放射線学会)について報告された。

(9) 若手研究会活動状況報告について

資料 4-2-9 に基づき, 小池参与より, 学会誌の若手ページ拡充, セミナー・発表会の開催実績・予定について報告された。

「平成 21 年度若手セミナー」(12 月 5 日開催予定)では, 「JCO 事故の教訓を風化させないために」をテーマとしているが, 前を向いた議論を中核に据えたものとなることが期待された。

(10) 学友会活動状況報告について

資料 4-2-10 に基づき, 安岡理事より, 第 3 回学生発表会(12 月 17, 18 日開催予定)の準備状況等について報告された。

(11) 学会賞の募集・選考スケジュールについて

資料 5-3 に基づき, 近江理事より, 平成 22 年度学会賞の募集及び選考スケジュール等について報告された。募集案内については, 問い合わせ先を修正の上 12 月発刊の学会誌に掲載される。

平成 22 年度学会賞選考委員会委員については, 杉浦紳之(副会長), 百瀬琢磨(企画委員長), 酒井一夫(国際対応委員長), 服部隆利(編集委員長), 林一成(外部), 下道國(外部)の 6 名が承認された。

(12) 平成 22 年度名誉会員及び特別会員(フェロー)の推薦について

資料 5-4 に基づき, 猪俣理事より, 平成 22 年度名誉会員及び特別会員の推薦候補について提案され,

承認された。

名誉会員候補については、次回総会において報告し承認を受ける。特別会員候補については、今後ご本人の意向を確認することとされた。

(13) 学会規定類の改定について

資料 5-5 に基づき、猪俣理事より、学会規定類の改定案について説明された。

「若手研究会運営規則」については「規則第 17 号」とし、「放射線防護標準化委員会の運営に関する細則」については「細則第 4 号」とすることが確認された。

「謝礼規則」については、提案どおり承認され、本日付で施行することとされた。

「日本保健物理学会規定」については、提案に対して、「入会・退会とも従前どおり理事会承認とする」、「委員会の長は、理事会の承認を得て会長が委嘱する」、定例総会の開催は「会員（正会員と正学生会員）に通知」とし「郵送書面、刊行物又は電子メールに記載して行う」に修文することで承認された。

新規の「日本保健物理学会における特許法第 30 条第 1 項の規定等の適用を受けるために必要な証明書の発行に関する規則（案）」については、研究発表会等の責任者による記載内容証明書の必要性等について再検討することとされた。

内規については、次回理事会で審議することとされた。

(14) AOCRP-3 準備状況について

資料 5-8 に基づき、小佐古理事より、スケジュール、特別セッション、AOCRP 総会日時、口頭発表セッション・リフレッシャーコース・学生セッションのノミネート状況、テクニカルツアー、海外招待者の調整状況、実行委員会の開催予定等について報告された。

(15) 学会創立 50 周年事業の検討状況について

資料 5-7 に基づき、猪俣理事より学会創立 50 周年事業の検討状況について報告された。

記念講演、記念誌、50 周年保物貢献賞の 3 項目について、次回総会で提案可能な程度に具体化することとされた。

50 周年事業の一環として検討された会員名簿の発行については、50 周年事業とは切り離して検討すること、早期作成を念頭にした会員名簿の作成目的や名簿の管理方法等の会員説明について素案を作成することとされた。

(16) 原子力総合シンポジウム運営資金の取り扱いについて

資料 5-9 に基づき、猪俣理事より原子力総合シンポジウム 2009 運営委員長より依頼のあった原子力総合シンポジウム運営資金の取り扱い（今後日本原子力学会への寄付金とすること）について説明され、承認された。

(17) 集金代行サービスについて

資料 5-10 に基づき、村山理事より集金代行サービス（コンビニ収納サービス）の活用についての検討結果が報告された。

導入コストが大きいですが、会費集金率の減少傾向を踏まえた会員サービスの向上の観点からは魅力があり、契約パターンの選択等安価な方法がないか検討することとされた。

(18) 後援名義使用許可願（KIDS Workshop 2009）について

資料 5-11 に基づき、猪俣理事より、放射線医学総合研究所より依頼のあった後援名義使用許可願（KIDS Workshop 2009）について説明され、後援について承認された。

(19) 食品への放射線照射に関する調査についてのご確認のお願いについて

資料 5-12 に基づき、猪俣理事より、三菱総合研究所より依頼のあった団体名の調査報告書リスト掲載について説明され、団体名掲載について承認された。

(20) 「大学教育の分野別質保証に向けて - 日本学術会議からの報告」公開シンポジウム」のアンケート調査について

資料 5-13 に基づき、安岡理事より、日本学術会議より依頼のあったアンケート調査回答案について説明され、回答について承認された。

(21) 入退会について

資料 5-14 に基づき、猪俣理事より以下の入退会について報告され、承認された。

入会：（団体会員）独立行政法人原子力安全基盤機構

退会：（正会員）横須賀美幸 新谷貞夫 三隅凌

また、次回理事会に向けて検討中の入会申込書の書式等の変更案、ホームページへの会員情報掲載

- 案，会費未納者の状況について紹介された。
- (22) 第 47 回アイソトープ・放射線研究発表会について
資料 5-15 に基づき，近江理事より，企画案の提出依頼（締切：2010 年 2 月 16 日）があり，杉浦副会長と協力しながら進めることが報告された。
- (23) 平成 23 年公募において設定する「時限付き分科細目」の新分野候補の提案について
資料 5-16 に基づき，金子会長より，日本学術会議事務局経由日本学術振興会より依頼のあった平成 23 年度公募において設定する「時限付き分科細目」の新分野候補について意見を提出したことが報告された。
- (24) その他
次回第 6 回理事会は，1 月 18 日の週について日程調整の上開催することとした。

以下メーリング理事会

- (25) 入退会の承認について [メーリング理事会 H21-23]
以下の入退会について、承認された。(12 月 24 日付)
入会： (正会員) 福德康雄
(正学生会員) 早瀬利博
(準学生会員) 守屋耕一，廣内淳
(団体会員) 独立行政法人原子力安全基盤機構 / 国際輸送規則調査検討会
退会： (正会員) 小村和久，田中俊一
- (26) 学会シンポジウム開催の承認について [メーリング理事会 H21-24]
百瀬企画委員長より提案のあった日本保健物理学会特別シンポジウム（企画行事）「放射線審議会・原子力安全委員会における放射線防護に係る基本的考え方の検討状況について」について、承認された。(12 月 28 日付)

(原技協 猪俣一朗)

企画委員会報告

平成 21 年度 第 3 回 企画委員会 議事録

日時：平成 21 年 11 月 27 日(金) 13:30～17:00

場所：原子力研究開発機構システム計算科学センター

出席：百瀬(委員長)，近江，飯本，川浦，伴，林，南，山崎，中田(幹事)

議題：

1. 平成 21 年度第 2 回議事録確認
2. 理事会報告
3. 研究会活動報告
 - ・ラドン測定標準化専門研究会
 - ・ラドンの防護規準に関する専門研究会
 - ・放射線教育の推進支援に関する専門研究会
 - ・放射線安全の新しいパラダイム検討専門研究会
 - ・医療放射線リスク専門研究会
4. 企画行事について
5. 広報報告
6. インターネット Gr.報告
7. その他

配布資料：

資料 3-1 第 2 回企画委員会議事録(案)

資料 3-2 平成 21 年度第 4 回日本保健物理学会理事会議事録(案)

資料 3-3-1 ラドン測定標準化専門研究会

資料 3-3-2-1 ラドンの防護規準に関する専門研究会報告

資料 3-3-2-2 ラドン測定標準化及び関連の国際動向に関するシンポジウム(案)

資料 3-3-3 放射線教育の推進支援に関する専門研究会報告

-
- 資料 3-3-4 放射線安全の新しいパラダイム検討専門研究会報告
 - 資料 3-4 UNSCEAR の最新動向と放射線防護研究の展望
 - 資料 3-5 総会案内状の合理化について
 - 資料 3-6 インターネットグループ (I G) の活動について

議事：

1. 第 2 回企画委員会議事録確認

資料 3-1 に基づき、前回会合の議事録を確認し了承された。

2. 理事会報告

資料 3-2 に基づき理事会での議事・報告事項を確認した。

3. 専門研究会活動報告

各専門研究会担当委員から資料 3-3-1 ~ 3-3-4 に基づき以下の報告があった。

- (1) ラドン測定標準化専門研究会は、9 月 11 日に第 3 回会合を開催し、国内の標準化に係る活動の情報共有、報告書ドラフトの審議及び検討、海外研究者の講演 (NathalieMichielsen 博士(France)、ThomasBeck 博士(Germany)、LidiaPurghel 博士(Romania)) 等を行った。2 月頃シンポジウム開催予定である。
- (2) ラドンの防護規準に関する専門研究会では、2009 年 10 月 15 日に主要委員において連絡会を開催し、今年度及び次年度の活動計画を確認した。今年度は、WHO の報告書のレビューを実施し、その後、項目ごとに担当者を決め検討する。担当者は次のとおりである：住居環境 (細田)、ウラン廃棄物 (飯本)、その周辺環境 (飯田)、濃度-線量変換 (下)、濃度調査に関わる具体的手順 (床次)。また、2 月に開催予定であるシンポジウムに合わせて都内で委員会を開催するか検討する。
- (3) 放射線教育の推進支援に関する専門研究会では、9 月に理事会で設置が承認され、その後、委員による今後の計画の確認が行われた。今後、地域意見交換会を長崎 (平成 21 年 12 月 4 日 (金))、大阪 (平成 21 年 12 月 19 日 (土)) で開催する旨の報告があった。
- (4) 放射線安全の新しいパラダイム検討専門研究会では現在、本研究会のまとめ方等について、委員間で擦り合わせを実施している。次回の会合で、報告書・シンポジウム等についての議論がなされる予定である。中間報告について、投稿時期は今年度中を目標として検討中である。
- (5) 医療放射線リスク専門研究会では、専門研究会報告書を作成中である。
(詳細は Newsletter 各専門委員会報告を参照)。

4. 企画行事について

資料 3-4 に基づき、シンポジウム：UNSCEAR の最新動向と放射線防護研究の展望について、紹介があった。本件は、原子力安全委員会主催で日本保健物理学会が協力するものであり、平成 22 年 1 月 30 日に東京大学本郷キャンパス工学部 11 号館 1 階講堂で開催される。

5. 広報報告について

資料 3-5 に基づき、総会案内状の合理化について、広報担当理事及びインターネット Gr. で検討する旨の報告があった。本件に関連して、集計に E-mail を利用する場合、個人識別が必要となるが、現在、事務局でしか個人情報は管理されていないため、必要となる情報の有無等について、確認することとした。

6. インターネットグループ報告

- (1) Newsletter No.56 は、1 月下旬に発行することとした。
- (2) 実際の ML 登録者と ML 登録の希望確認した名簿で不整合がある。不整合になっている会員に意向確認のメールを送付し、現在、修正中である。また、本作業において、退会された方から ML の継続希望があったが、理事会での協議結果に基づき ML の利用規約のとおり学会員のための送付とすることを確認した。

7. その他

次回の会合は、1 月下旬から 2 月上旬で調整する。

(原子力機構 中田陽)

日本保健物理学会特別シンポジウム開催報告

「放射線審議会・原子力安全委員会における放射線防護に係る基本的考え方の検討状況について」

平成 22 年 1 月 19 日、学会主催により、東京大学工学部 11 号館 講堂において標記シンポジウムを開催いたしました。このシンポジウムは放射線審議会及び原子力安全委員会専門部会において放射線防護分野に関連して検討が進められている事項について会員等の理解を深めるために理事会及び企画委員会が中心となって企画したもので、保健物理学会員に加え、他の関連する学会の関係者にも参加を呼びかけました。当日は 140 名を越える多数の参加者を得て最近関心の高まっている放射性廃棄物の処分に係る話題等を中心に活発な討論が行われました。

冒頭、金子正人日本保健物理学会長の開催挨拶の後、基調講演では、中村尚司東北大学名誉教授から、シンポジウム開催当日の午前中に放射線審議会基本部会で決定されたばかりの「放射性固体廃棄物埋設処分及びクリアランスに係る放射線防護に関する基本的考え方について」の内容が報告され、我が国における放射性固体廃棄物埋設地の管理期間終了後の公衆の線量規準は線量拘束値である 300 マイクロシーベルト/年を上限とする値とすることが処分方法によらず妥当であること及び防護の最適化の観点から、公衆の被ばく線量が設定された値を下回る場合でも、当該被ばく線量が合理的に達成できる限り低くなるよう考慮が払われるべきであるなどの結論が得られたことなどが報告されました。続いて杉浦紳之近畿大学原子力研究所准教授からは、原子力安全委員会における放射線防護関連事項の検討を行う枠組みや最近の安全審査指針類の見直しの動向等について報告されました。後半のパネルディスカッションでは下道国藤田保健衛生大学客員教授を座長として「放射性固体廃棄物の処分に係る線量基準を考える」と題して 3 名のパネリストをお招きしてパネルディスカッションが行われました。山名元京都大学原子炉実験所教授は、放射性固体廃棄物の特性と処分場の概念、余裕深度処分の管理期間終了以後における安全評価に関する考え方の検討状況について具体例を交えて分かりやすく解説されました。余裕深度処分の管理期間終了以後における安全評価に関する考え方の検討にあたっては「線量限度」「線量拘束値」「防護の最適化を求める目標リスクレベル」「シナリオのめやすとしての線量」などの相対的な関係に関する議論が活発に行われたことが紹介され、放射線防護上の規準と、工学システムに求めるべき規制の基準の関係が、これらの議論の本質的な中心であったことを指摘されました。

甲斐倫明大分県立看護科学大学教授からは、これまでの国際放射線防護委員会報告書の放射性廃棄物の防護の考え方等がレビューされるとともに、潜在被ばくの取扱いについて、遠い将来に長期にわたり線量の不確かさを伴うこと、線量推定の結果は健康損害の尺度とはならず、確率や発生時の影響を低減するための措置を検討するにあたって処分システムに与えられる防護の指標として考えれば良いのではないかといった考え方が示されました。

山本英明日本原子力研究開発機構原子力科学研究所技術主席からは、低レベル放射性廃棄物埋設に関する安全規制の基本的考え方について過去に原子力安全委員会等で行われた検討の結果である「管理期間」終了以降は、安全規制を要しない段階に至ること」とする考え方は、管理期間中に放射能が十分に減衰するような放射性廃棄物の埋設を想定していたことに起源があることが関連報告書類の時系列紹介によって示されました。また、放射性廃棄物処分の安全評価に共通する事項として、評価対象期間が極めて長いことに伴う不確かさを考慮するためにリスク論的考え方を適用した安全評価を行うべきことなどの考えが示されていること等が報告されました。原子力安全委員会専門部会で報告書案のとりまとめが進行中の「余裕深度処分の管理期間終了以後における安全評価に関する考え方」については、その中で示されている安全審査のための「めやす」は放射線防護のための国内の他の規準との整合性を考慮すべきであり、この観点から報告書案に対して代案を提出しているとの報告がありました。

パネリストからの講演の後、指定発言では、笠井篤元日本原子力研究所主任研究員・研究室長から規制等に用いる放射能濃度等の基準は根拠を明らかにしておくべき等の意見があり、その後の総合討論においても限られた時間ではありましたがフロアも交えた活発な討論が行われました。なお、この特別シンポジウムの座長印象記は学会誌「保健物理」3 月号に掲載の予定です。また、シンポジウムで配布された要旨及び講演資料は、学会のホームページにも掲載していますのでご参照ください。

(原子力機構 百瀬琢磨)

編集委員会報告

平成 21 年度 第 3 回 編集委員会 議事録

日 時：平成 21 年 9 月 15 日(火) 13:30~17:30

場 所：電力中央研究所(大手町) 第 4 会議室

出 席：服部(委員長)、佐々木(幹事)、安岡(担当理事)、横山、真田、中野、木村、三枝、森泉、古田、大倉

(若手), 笠原(事務局)

議 題:

1. 前回議事録の確認
2. 電子ジャーナルに係る確認
3. オンライン学術 DB 登録に係る検討
4. RP in the World に係る確認
5. 査読に係る検討
6. 覚書に係る確認
7. 企画記事提案と J to W 及び巻頭言に係る確認
8. 各パート進捗状況の確認
9. 44-3, 44-4 編集進捗状況の確認、論文審査状況の確認
10. その他

配布資料:

- 3-1 平成 21 年度第 2 回編集委員会議事録(案)
- 3-2-1 J-STAGE 打合せに関する資料
- 3-2-2 登録作業に関する資料
- 3-3-1 オンライン学術 DB に関する資料
- 3-3-2 IF に関する資料
- 3-4-1 RP in the World に関する資料
- 3-4-2 RP in the World 主旨文章
- 3-5-1 形式査読と査読に関する資料
- 3-5-2 形式査読のチェック項目
- 3-5-3 査読ガイドライン
- 3-5-4 査読依頼フォーム
- 3-6 覚書(案)
- 3-7-1 企画記事などの分担表
- 3-7-2 J to W 及び巻頭言のリスト
- 3-8-1 A パート進捗状況
- 3-8-2 B パート進捗状況
- 3-8-3 C パート進捗状況
- 3-8-4 若手記事の提案
- 3-9 44-3, 44-4 号編集状況・論文審査状況

参考資料:

- 3-1 形式査読(主)依頼フォーム
- 3-2 形式査読(副)依頼フォーム
- 3-3 査読基準の例
- 3-4 「保健物理」投稿規則・「保健物理」投稿の手引き・Instruction to Authors
- 3-5 電子ジャーナルにおける個人情報の取扱い

議 事:

1. 前回議事録の確認
平成 21 年度第 2 回編集委員会の議事録(案)が承認された。
2. 電子ジャーナルに係る確認
Journal@rchive の現状と J-STAGE について幹事より報告され、確認した。学会誌の発行後即時電子化公開によるメリット、デメリット等について議論した。
3. オンライン学術 DB 登録に係る検討
トムソンロイター社の提供する学術誌 DB である Web of Science への保健物理誌の登録申請について議論し、Web of Science に登録する方向で進めていくことが確認された。
4. RP in the World に係る確認
新区分の RP in the World について、委員長より報告があり、IAEA の各委員会、UNSCEAR, OECD/NEA CRPPH, ISO/TC85/SC2, ICRU の会合について継続的な情報収集と発信ができる体制を構築しつつあることを確認した。

5. 査読に係る検討

査読のフローについて確認し、査読結果の判断根拠を明確にするため、投稿の手引きを改訂していくことが必要であることを確認した。また、原稿のテンプレートを学会 HP に掲載することになった。

6. 覚書に係る確認

覚書について幹事より説明があり、転載に係る手続きなどについて確認した。

7. 企画記事提案と J to W 及び巻頭言に係る確認

企画記事の提案について現状と今後の予定を確認した。

8. 各パート進捗状況

44-3 号以降の企画記事の進行状況が各パート幹事より報告された。

9. 44-3, 44-4 編集進捗状況の確認, 論文審査状況

編集事務局より、同号の編集状況, 論文審査状況について報告され、確認した。

10. その他

次回の会合は、平成 21 年 11 月 19 日(木)13 時 30 分から、大手町で開催されることとなった。

(電中研 佐々木道也)

国際対応委員会報告

国際対応委員会活動報告

1. IRPA 対応

IRPA13 (2013 年 5 月 13 日 - 18 日。英国グラスゴー) のプログラム委員 浅野芳裕会員を通じ、会議プログラムの大枠案 (トピックスやセッションのタイプ等) につき、コメントを求められた。検討の結果、妥当な案であるとの結論に達し、その旨回答した。今後提示される、より具体的なプログラム案についてもコメントすることとした。

2. AOCRP-3 へむけて

(1) AOCRP-3 期間中に AOARP 理事会および総会が開催される。AOCRP-4 の開催地や今後の IRPA との連携のあり方等につき議論される予定である。

(2) AOCRP-3 実行委員会と協力して、国際機関関連セッションの企画を進めている。

WHO と連携して、医療被ばくに関する Refresher Course と特別講演を予定している。

3. 日中韓連携

韓国放射線防護学会 (KARP) より、2010 年 10 月あるいは 11 月に 3 カ国国際ワークショップを開催したい旨の連絡があった。開催地の候補は、済州島。KARP 年会のうち半日を充て、各国 2 名 (計 6 名) による講演と討論を予定しているとの事。企画委員会と協力し、テーマの提案等を進める予定である。

(放医研 酒井一夫)

放射線防護標準化委員会

平成 21 年度 第 29 回 放射線防護標準化委員会幹事会議事録

日 時：平成 21 年 12 月 7 日(月) 18:00 ~ 20:00

場 所：東新ビル 1F105 会議室

出席者：小佐古(委員長), 飯本, 橋本, 鈴木(幹事)

議事概要：

1. 作業会・専門部会準備会活動等について

廃棄物作業会、物品持出作業会、ラドン専門研究会の活動報告がなされた。

2. 運営細則改正について

委員の選任が電子メールでの審議により行えるように、細則の改正について討議した。その結果、改正案を次回の標準化委員会に議案として提出することが決まった。

3. 今後の活動について

「重要な概念」の解説書を今年度中に完成させることを目標に、キーワード別のポイントを確認し、全体のトーン合わせをするために、原案執筆者を中心とした合宿近日中に開催することとした。

4. 第8回放射線防護標準化委員会開催について

3月末に日本原子力学会（水戸）の会期に合わせ開催することとした。

(東京大学 飯本武志)

若手研究会

活動報告

1. 状況報告

主査・幹事会合を平成22年1月15日に日本原子力研究開発機構原子力科学研究所にて開催いたしました。主な議題は以下の通りとなっております。

- (1) 主な活動実績及び今後の計画の報告
- (2) 第7回若手勉強会の計画
- (3) JHPS 学会誌(若手研究会のページ)
- (4) 次年度の若手研人事について
- (5) 予算執行状況及び次年度の予算編成について
- (6) 若手勉強会の今後の展開について

2. 活動実績及び活動計画

若手研究会の活動実績をご報告いたします。今後も若手らしい企画を展開し、他学会の若手との連携・協力等含め、活発な活動を行っていく予定です。ご期待下さい。

<活動実績> (平成21年9月以降)

- 9/3, 4 第5回アジア会合
- 10/29, 30 保物セミナーへの参画
- 12/5 平成21年度若手セミナー「JCO 臨界事故の教訓を風化させないために」
- 12/17, 18 第6回若手勉強会(第3回学生研究発表会への参画)
- 1/15 第12回主査・幹事会

<活動計画>

- (3月) 第7回若手勉強会
- (4月) 第13回主査・幹事会
- (5月) AOCR-3 参加, 第8回若手勉強会

3. 若手セミナーの実施報告

平成21年12月5日に平成21年度若手セミナーを開催いたしました。「JCO 臨界事故の教訓を風化させないために」と冠し、事故の収束に尽力された原子力機構の野村正之先生及び金盛正至先生にご講演いただきました。現場指揮所、そして事故現場対応という異なる視線で得られた教訓をご説明いただきました。現在の若手研員のほとんどは、放射線防護専門家として JCO 事故を経験しておりません。今回のご講演は、若手に大きな刺激を与え、非常に有意義なセミナーとなりました。学会誌 45(1)で詳細を掲載する予定です。ご期待下さい。

4. 会員の募集

若手研究会では会員を随時募集しております。現在の会員は39名(平成21年4月1日)です。35歳以下の学会員であれば、どなたでも入会資格がありますので、下記の主査あるいは幹事までお気軽にご連絡下さい。

(主査) 山外 功太郎(日本原子力研究開発機構)

TEL: 029-282-5183, FAX: 029-282-5933, E-mail: yamasoto.kotaro@jaea.go.jp

(幹事) 荻野 晴之(電力中央研究所)

TEL: 03-3480-2111, FAX: 03-3480-3564, E-mail: haruyuki@criepi.denken.or.jp

(幹事) 小池 裕也(東京大学)

TEL: 03-5841-2876, FAX: 03-5841-3049, E-mail: koi@ric.u-tokyo.ac.jp

(原子力機構 山外功太郎)

学友会

活動報告

2009年12月17日、18日に第3回日本保健物理学会学生発表会が神戸大学深江キャンパス総合学術交流棟コンファレンスホールにて開催されました。今回、学生による発表が20件、基調講演1件、企業による講演3件に加え、学友会卒業生および若手研究会の方々による講演、さらには韓国の保健物理分野を専攻する学生との交流を目的とした日韓通信セッションと様々な内容の企画が、多くの方々のご協力の下、無事進められました。

学生発表に関しては、学生の参加者を学校別に挙げると、名古屋大学10名、東京大学6名、神戸大学2名、首都大学東京1名、近畿大学1名、奈良学園高等学校3名の計23名で、6つのセッションに分けて口頭発表が行われました。本発表会は学生が口頭発表を行う貴重な場であり、それぞれにおいて活発な議論が交わされました。今回特に印象深かったのは奈良学園高等学校科学部の学生グループによる研究発表であり、高校生ながら丁寧かつはっきりとした口調で、非常にわかりやすく説明を行う姿に感銘を受けました。

基調講演では、神戸薬科大学の安岡由美先生から「兵庫県南部地震前後の保健物理」という題目で、ご自身の被災経験も織り交ぜてご講演下さいました。また企業講演として日本原燃株式会社様、東京電力株式会社様、原子燃料工業株式会社様から企業概要や研究および業務内容の紹介が行われました。それから学友会卒業生のセッションでは、原子燃料工業株式会社の岩野健介様、JAEAの武藤啓太郎様から「大学院から社会へ」というテーマでご講演して頂き、また若手研究会のセッションでは「研究者への道」と題して、電力中央研究所の荻野晴之様、佐々木道也様、JAEAの佐藤達彦様からご講演して頂きました。学生時代から現在の職務に至るまで、ユーモアを交えながら幅広くお話しして下さい、学生にとって非常に良い刺激となったのではないかと思います。

さらに日韓通信セッションでは、僅かな時間ではありましたが、双方からの自己紹介や日本保健物理学会学友会の概要説明、今年5月開催予定のAOCRP-3に関する知識共有がとても和やかな雰囲気で行われました。このような遠隔地との通信を取り入れたのは今回が初めてでしたが、AOCRP-3を見据えて早い段階から双方の意見交換をすることができたのは、非常に有意義であったと思います。



また1日目終了後には懇親会が開かれ、他大学の学生同士、あるいは学生と社会人の方々との間で交流を深めました。

今回のような会は、普段は各々異なる大学で研究に励む学生同士が密度の濃いコミュニケーションを行える絶好の機会です。この場で得た知識や経験は今後の学生生活または社会人となった後も確実に生きてくることでしょう。今後もますます学友会の活動をより豊かなものにしていけたらと思います。最後に、今回の学生発表会に関わるすべての方々へ深く感謝申し上げます。

(東京大学 瀬戸口雄紀)

専門研究会報告

ラドン測定標準化専門研究会

「ラドン測定標準化専門研究会」は、ラドン測定に係る標準的な手法を提案し、また、技術上の課題を明確化することにより、将来的な日本の国家標準の確立に貢献することを目的として、平成 20 年度より活動している。第 3 回目の専門研究会を以下の通り開催した。

(第 3 回ラドン測定標準化専門研究会議事録)

日 時：平成 21 年 9 月 11 日(金) 13:00 ~ 17:30

場 所：放射線医学総合研究所 第 1 会議室

出席者：委員 7 名、オブザーバー：8 名

議事要旨：

国内の標準化に係る取り組みに関して、委員より日本分析センターと環境科学技術研究所の活動について紹介があった。また、フランス、ドイツ・ルーマニアの国際電気標準会議(IEC: International Electrotechnical Commission)委員より各国の標準化に係る活動について講演いただいた。さらに、ラドン測定標準化専門研究会の報告書について、今後のとりまとめスケジュール等を含め審議・検討を行った。

現在、報告書のとりまとめを進めるとともに、平成 22 年 3 月 3 日の「ラドン測定標準化及び関連の国際動向に関するシンポジウム」開催に向けた準備をしている。

(原子力機構 石森有)

放射線教育の推進支援に関する専門研究会

本研究会は 2009 年 12 月 5 日に、長崎大学にて九州地区、また 12 月 19 日に、中央電気倶楽部(大阪市内)にて関西地区の意見交換会を実施した。九州地区では、日本放射線安全管理学会の大会期間を活用したこともあり、地元の松田、藤本(長崎大)の他、福德(鹿大)、太田(新潟大)、馬場(東北大)、宮川(幹事)の各委員が参加し、各地域での状況を交換しあった。今後の活動として、鹿児島地区では、学校教育センターにおける中学教諭の放射線教育研修の実施を働きかけることが提案された。一方、関西地区は、飯田(阪大)、小田(神大)、堀口(近大)、篠原(JAEA)、宮川(幹事)の他、日本原子力学会「放射線と社会・環境」研究専門委員会及びかんさいアトムサイエンス倶楽部(K-ask)のメンバーとの合同開催であった。そこでは、中学校の放射線模擬授業をインターネット公開している東京理科大学の川村康文教授(エネルギー科学)をお招きし、活発な意見交換が行われた。各メンバーからの関西地区などでのこれまでの取り組みの報告の後、川村教授から報告された高校生・大学生の理科・物理などに対する科目別意識調査結果、同氏が実践している多彩なエネルギー授業コンテンツに大いに啓発され、会場を変えて遅くまで議論が続いた。

現状は、サイエンス・カフェなどイベント型の取り組みは各地で数多くなされているが、中学教諭が実践するケースに向けての活動には、多くの検討が必要な状況と感じている。

今後は、2010 年 3 月の茨城大での原子力学会「春の年会」の折に関東地区の意見交換会を開催したいと考えており、皆さんからの貴重な情報提供と活動提案をお願いします。

(日本原燃 宮川俊晴)

ラドンの防護規準に関する専門研究会

2009 年 10 月に飯田孝夫(本専門研究会主査)、床次眞司(ラドン測定標準化専門研究会主査)、細田正洋(本専門研究会幹事)の 3 名で今後の方針について打ち合わせを行った。今年度は、WHO の報告書のレビューを専門研究会のメンバーで分担して行う。その後、放射線防護標準化委員会によって作成された資料の“状況”及び“技術”に関する項目について適宜分担してガイドライン(案)の策定を行う。また、次年度では残りの課題について検討する事とした。さらに、3 月に開催されるラドン測定標準化専門研究会のシンポジウムを合同で開催する事を決定した。

(放医研 細田正洋)

学会掲示板

2010年度専門研究会の募集について

企画委員会では2010年度から新たに開始する専門研究会の募集を行っていますが、2009年12月末までに応募はありませんでした。このため、募集を継続しますので応募案件がありましたら適宜企画委員会までお寄せください。手続き等の詳細につきましては、以下の学会ホームページに掲載されている専門研究会運営細則をご覧ください。

http://wwwsoc.nii.ac.jp/jhps/j/outline/rules/rules_pdf/rule_002.pdf

(原子力機構 百瀬琢磨)

インターネットグループの活動

インターネットグループ(IG)は、保健物理学会企画委員会の傘下で、(1)学会ホームページの管理、(2)学会メーリングリストの管理、(3)ニュースレターの発行に関する活動を行っています。現在、活動しているメンバーは次のとおりです。

メーリングリスト管理(主査兼務) : 山崎 直(原子力機構)
 ホームページ保守 : 中野政尚・吉富 寛・中川貴博・大倉毅史(原子力機構)
 ニュースレター編集 : 鈴木敦雄(静岡県)、平尾茂一(名古屋大学)

IG活動へ興味を持たれた方(協力していただける方)、学会ホームページ等活動内容への改善案をお持ちの方は、気軽に学会公式アドレス(jhps@wwwsoc.nii.ac.jp)へメールしてください。

(中部電力 山崎直)

メーリングリストへのアドレス登録のお願い

日本保健物理学会では学会員の皆様への情報提供を目的として、メーリングリストを運用しております。メーリングリストでは、研究発表会やシンポジウムの開催案内・専門研究会活動・人事公募・ニュースレター発行案内などの情報が、月10件程度メールで配信されています。配信を希望される方は、保物事務局(jhps@iva.jp)まで配信先アドレスを連絡願います。

(中部電力 山崎直)

学会刊行物の案内

保健物理学会から下記の出版物が刊行されています(括弧内は残部数)。入手ご希望の方は、日本保健物理学会事務局巨億にお申し込み下さい(送料・税別)。なお、学会の研究発表会や企画行事の際には割引価格で販売している刊行物もあります。

- | | |
|-------------------------------------|-------------------------|
| 1) ICRP Publ.66 新呼吸気道モデル概要と解説(1995) | 1,777 円(26部) |
| 2) ラドンの人体への影響評価専門研究会報告書(1998) | 1,700 円(53部) |
| 3) 高度人体ファントム専門研究会成果報告書(1998) | 2,000 円(81部) |
| 4) 自然界の放射線(能)の面白さ、相互理解の掛け橋に(2001) | 1,700 円(128部) |
| 5) 人々とともにある研究が拓く相互理解と信頼関係(2002) | 2,000 円(159部) |
| 6) 放射線の人体への影響 第3版(1986) | 800 円(会員割引価格, 送料込)(4部) |
| 7) 放射線の人体への影響 第5版(1992) | 800 円(会員割引価格, 送料込)(15部) |

連絡先: 日本保健物理学会事務局 柘植 円理子

〒104-0031 東京都中央区京橋 2-2-11 文献堂ビル 3F

TEL:03-3548-0342 FAX:03-3548-0344 E-mail: jhps@iva.jp

会員コーナー

保物セミナー2009に参加して

保物セミナー2009が10月29日(木)、30日(金)に、大阪科学技術センター8階大ホールにて開催された。参加者数は158名であった。

保健物理学会に入会してまだ一年半の新参者の私が、保物セミナーに参加させていただくのは今回が初めてであり、また、保健物理学会の企画委員として、はじめてお手伝いさせていただくことになったのが、この保物セミナー2009の保健物理学会企画セッションであった。

毎年、保健物理学会では、保健物理学に関連したホットな話題をこの保物セミナーにおいて提供しているが、今回は、「医療被ばくに注目して」と題して、日本における医療被ばくの現状を報告するとともに、医療被ばくによるリスク評価の問題点や、正当化と最適化に関する国内外の最新動向について、それぞれの分野の専門の先生方に講演していただくことにした。

医療における放射線利用では、患者の被ばくに伴うリスクよりも医療上の利益、医療上の判断が優先されるために、医療従事者以外の放射線の専門家が、防護や管理に直接関与することはほとんどない。ゆえに、医療が専門外の参加者が多い保物セミナーで、「医療被ばく」について興味を持って聞きに来てくれる参加者がどの程度いるのだろうか？と計画当初から少し心配していたが、最終日最後のセッションにもかかわらず、多くの聴衆に恵まれた。

座長の太田先生(名古屋大学)から、セッションの概要説明があった後、名古屋大学の小山先生が、具体的な実測データを基に、X線画像診断における医療被ばくの現状について報告した。

日本の医療被ばくの増加に大きく貢献しているのは、X線CT検査数の増加であることや、基本的には、線量のガイダンスレベルに従って管理を行うことが適切であるが、最新のX線画像診断装置には多種多様な機能が搭載されており、オペレータが検査ごとの患者線量を把握しにくくなっている傾向があると話した。会場からは、「日本の医療被ばくの現状をさらに詳細に検討していただきたい」、といった要望や、「患者の被ばくに注目するだけでなく、アイソトープを投与された患者が、検査後、公共交通機関を使用することで一般市民に及ぼす影響についても検討したらどうか」、といった意見が出た。

5分の休憩を挟んだ後、放射線医学総合研究所の吉永先生が、医療被ばくによるリスク評価について説明した。まず、放射線治療および診断放射線による二次癌の発生確率を調査した国内外の疫学研究について多数紹介した。一般に、診断レベルの低線量被ばくによるリスクを検出することは非常に難しいが、原爆被爆者の疫学データに基づいたリスク推計法は、診断放射線によるリスクを評価する上で有用な手段であると説明し、一方で、それぞれのリスク推計値には大きな不確かさが伴うため、数値の解釈の仕方には注意が必要であるとまとめた。今後の科学技術の更なる発展により、医療被ばくによる健康リスクがより明確になるよう期待したい。

続いて、大分県立看護科学大学の伴先生が、医療被ばくの正当化と最適化について話した。従来、「正当化は医師が行い、最適化は医師と診療放射線技師が行う」、とされてきたが、近年の先進国における医療被ばくの急激な増加を懸念したICRPやIAEAが中心となり、欧米では、医師の聖域であった正当化に対して、実効性を持たせたガイドラインが作成され、そのガイドラインの有効性が徐々に認められつつあるという、海外での正当化改革への取り組みについてわかりやすく説明した。一方、防護の最適化について、欧米では、診断参考レベル(DRL)が有用なツールとして確固たる地位を確立しているが、ローカルサーベイを行って統計学的に導き出されるDRLでは、最新の診断技術には即座に適用できないといった限界があることを指摘した。

もちろんDRLは単なる線量指標であって、画質については全く考慮されていない。診断能が考慮されていないこのような指標を、日本でもそのまま防護の最適化に適用しても問題はないのか？と疑問に思われた方も多かったのではないだろうか。これについても、今後十分に議論する必要があるだろう。

また、伴先生の講演を聞いて、日本でも欧米のような正当化と最適化へのアプローチが実行可能であるのだろうか？かなり問題があるのでは？と少し疑問に思ったが、世界一の医療被ばく大国である日本でそんなことを悠長に考えている時間はない！我々放射線の専門家が、様々な垣根を取っ払って、一丸となって医療被ばくの正当化と最適化の改革にすぐにも取り組まなければ、日本国民の医療被ばくによるリスクは今後も増加し続ける危険性があるのだ！と思い直した。

このセッション全体を聞いた参加者の中に、医療被ばくの様々な問題点に少しでも興味を持ってくださった方がいたら、医療被ばく研究分野に身を置く私としても非常にうれしいことである。

最後になりましたが、お忙しい中、貴重なご講演を賜りました3人の講師の先生方に御礼申し上げます。

(名古屋大学 川浦稚代)

発行：日本保健物理学会企画委員会

編集：企画委員会インターネットグループ

担当：山崎 直（中部電力）